

# 調べ合い 一緒に考える



がんを知る

@奈良県立大淀高校

文化祭で成果発表

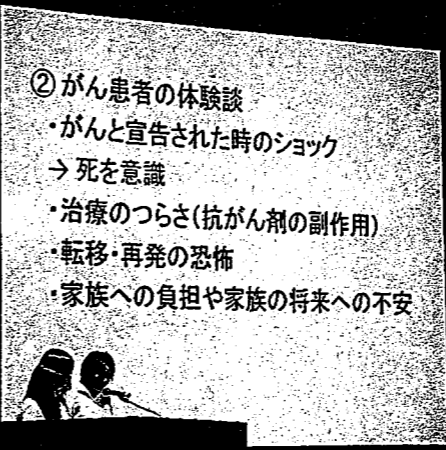
奈良県立大淀高校(奈良県大淀町)の1年4組は、県内の普通科高校で唯一の「看護・医療コース」。

## 医療系への思い、より深く

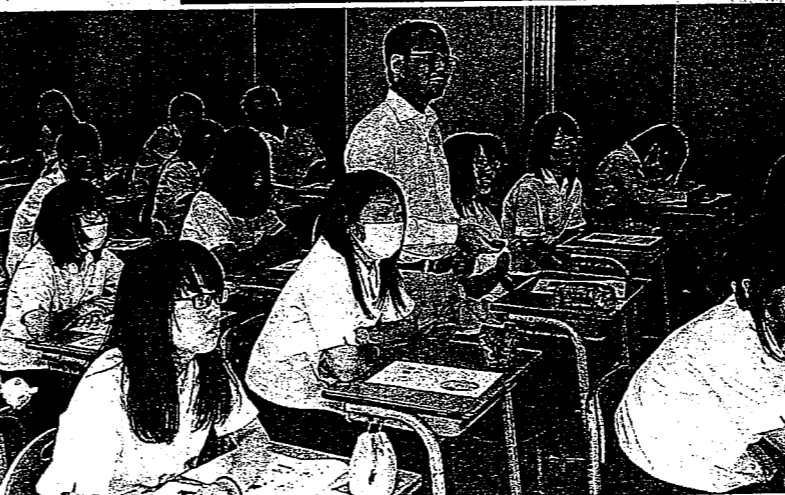
「ここで先輩方にお聞きします。現在、日本では何人に一人が一生涯のうちにかんになるでしょうか？」

三浦美智子校長は「医療系の仕事をしたいという明確な目的意識を持っている生徒たち。その夢がかなうよう、精いっぱいバックアップしていきたい」と話している。

大淀高校の「看護・医療コース」は、医療系の大学・短大・専門学校に進学することを目標に今年度、新設された。



学習成果を文化祭で発表する看護・医療コース(1年4組)の生徒ら。奈良県立大淀町のあらかしホール。



「細胞が寿命を迎え、新しく生まれ変わったときにミスがあると、それががん細胞になるのです」

### 発表の3カ月前、生徒たちが聞いた講義

向原徹 神戸大特命准教授



都道府県別のがん検診の受診率をみると、みなさんのいる奈良県も、私の大学がある兵庫県も、どちらも最下位グループ。

私は、ちょうどみなさんが生まれた頃に医師になりました。様々な背景や人生経験をもち患者さんから多くのことを学ばせてもらったり、患者やその家族から「ありがとう」と感謝されたり、医師になつてよかったと思えることはたくさんあります。

## 予防・検診の意識高めよう

がんは予防できることを知っていますか。まずは、たばこを吸わないこと。子宮頸がんなどワクチンで防げるがんもあります。そして、大事なのが検診を受けること。

中川恵一 東京大医学部准教授



日本は国民の半数(男性では約6割)が、がんになる。「世界一のがん大国」です。

## 「がん教育」が患者を減らす

がん急増の原因は、急速に進行する高齢化です。がんは一種の老化ですから、世界一の高齢化社会となった日本にがんが増えるのは自明と言えます。

あまりに高齢化が速かった結果、がんが増えるスピードも史上例を見ないものです。この現実を、行政や教育といった社会の仕組みが追いついていないのが、今の日本の姿でしょう。